県地質調査業協会が講演会

地質リスクの重要性・見識深める

岡山県地質調査業協会（小谷裕司会長）は9月25日、「令和8年度技術講演会～地形学や地生態学から地質リスクを考える～」を岡山市内で開催した。当日は1200人（会場・Web併用）を超える建設コンサルタント業界に身を置く技術者や、その関係者らが参加しており、「地質リスクの重要性」について見識を深めた。

小谷会長は冒頭のあいさつで、「多くの方がこの講演会に興味を持ってくれたことにお礼を伝えたい」と述べた後、「建設工事における工事費・工期・安全性など課題には、『地盤・地質の不確実性』が大きく起因している。地質調査は単に設計用データを得るだけでなく、事業の意思決定に必要なリスク情報を提供する重要な役割を担っている。本日の講演を今後の糧とし、より社会に貢献ができる人材になれるように努めていこう」と思いを語った。

講師（発表順）には、エイト日本技術開発の理事・技師長である木村隆行氏が「実務に役立つ地形から見た地質リスク」を、関西大学文学部世界史・地理学専修の教授である黒木貴一氏が「地質リスク評価への地形学的視点」を、山口大学大学院創成科学研究科地球科学分野の教授である太田岳洋氏が「地生態学的視点から見た地質リスク」についてそれぞれの経験・研究を基とした講演を行った。



講演する木村氏

参加者からは、「新たな知識を吸収することができ、有意義な時間となった」など多くの声が上がっていた。